

風土記の丘の花だより³¹⁹

今、そしてこれから見られる植物(2026年5月2日)

フジの花が終わった今の季節、園内を歩いていると、どこからともなく、けだるいような、生臭いような臭いが漂ってきます、シイノキ(ツブラジイ)の花のにおいです。好き嫌いはあるでしょうが、初夏らしいにおいです。



小早川家住宅や谷山家住宅の庭でアヤメがきれいに咲いています。昨年もきれいでしたが、今年は更に花数が増えたようで見事です。アヤメは水辺に生えるというイメージが強いですが、それはカキツバタで、アヤメは乾いた土地に生えます。次に紹介する水辺に生えるキショウブも、名前にショウブと付きますがアヤメの仲間です。よくショウブとアヤメは混同されます。確かにアヤメもショウブも漢字でかくと「菖蒲」ですよね。園芸植物にハナショウブがありますが、それもアヤメの仲間です。同じく園芸植物にアイリスとかイリスなどと呼ばれるものがありますが、それもアヤメの仲間です。もちろんカキツバタもです。この仲間の学名(属名)は *Iris* です。それを英語読みするとアイリス、そのまま読むとイリスです。イリスはギリシャ神話の全能の神ゼウスとその妻ヘラの間を取り持つ従者の名前だそうです。そんなところから名付けられたのですね。ところで、ショウブはアヤメの仲間ではないのです。少し前までサトイモ科に分類されていた植物で、こんなきれいな花は咲きません。ややこしい話でした。

前はギンランを紹介しましたが、今度はキンランです。今年も多くの人に見守られながら、きれいに咲いてくれました。昔、金属を表現するのに、鉄は「くろがね」銅は「あかがね」金は「くがね」銀は「しろがね」という言葉を用いました。くがねの「く」は黄色のことです。キンランという名前、昔の人は上手に名付けたものです。こんな野生ランが普通に見られる里山を守っていききたいものです。他に紫色のラン「シラン・紫蘭」もよく咲いています。梅雨時には黒いラン「コ克蘭・黒蘭」も見られますよ。

ヒトリシズカが咲いてから約一月、今度はフタリシズカが咲き始めました。名前はよく似ていますが花の趣はずいぶん違います。大きさも違って、こちらの方がかなり大型です。それに花の形も違います。でも、どちらもセンリョウ科で同じ仲間です。これは、万葉植物園のマユミが植えられているコーナーで撮りました。ヒトリシズカと同じ場所に混ざって生えています。

松下